

- 問1 宮崎市が位置する太平洋沿岸南部の地域で、冬でも温暖な気候となり、かつ夏から秋にかけて降水量が非常に多くなる主な要因の組み合わせとして、正しいものはどれですか。(2023年 福井公立入試 類似)
1. 暖流である黒潮の影響と、湿った季節風や台風の影響
 2. 寒流である親潮の影響と、北西から吹く季節風の影響
 3. 対馬海流の影響と、日本海側特有の冬の季節風の影響
 4. 内陸の盆地による影響と、一年を通じて安定した高気圧の影響
- 問2 九州地方の農業の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。(2020年 福岡県公立入試 類似)
1. 宮崎県や鹿児島県では、シラス台地という火山灰由来の土地が広がっているため、農業産出額において畜産が占める割合が非常に高い。
 2. 九州南部は平野が広く水利が良いため、農業産出額のほとんどを米(稲作)が占めている。
 3. シラス台地は保水力が非常に高いため、サトウキビなどの工芸作物を中心とした農業が行われている。
 4. シラス台地の地層は果樹栽培に最も適しているため、リンゴやブドウの産出額が全国1位となっている。
- 問3 多数の半島や島々を含み、海岸線が複雑に入り組んでいる長崎県の地形的・気候的背景と、それに基づいた農業の仕組みについて説明したものと正しいものはどれですか。(2018年 東京都公立入試 類似)
1. 平野部が少なく険しい地形が多いが、温暖な気候を活かして、火山の裾野や傾斜地ではばれいしょや果樹の栽培が行われている。
 2. 広大な平野と火山の火山灰土を活かし、機械化された大規模な農地で小麦や大豆の生産が中心となっている。
 3. 複雑な海岸線により冬の冷え込みが厳しいため、ビニールハウスを用いた促成栽培による野菜出荷が平野部で展開されている。
 4. 火山の影響で水はけが良すぎるため、稲作はほとんど行われず、砂丘地での乾燥に強い作物の栽培が主となっている。
- 問4 九州地方の産業構造を分析した際、農業産出額における「畜産」の割合が特に高い県と、地域内で最大の「工業出荷額」を記録している県の名称として適切なものはどれですか。(2023年 三重公立入試 類似)
1. 畜産の割合が高いのが宮崎県、工業出荷額が最大なのが福岡県
 2. 畜産の割合が高いのが福岡県、工業出荷額が最大なのが宮崎県
 3. 畜産の割合が高いのが佐賀県、工業出荷額が最大なのが福岡県
 4. 畜産の割合が高いのが宮崎県、工業出荷額が最大なのが佐賀県
- 問5 九州地方南部に位置し、薩摩半島側の沿岸部に石油備蓄基地が立地している県について、その交通環境や都市整備に関する記述として最も適切なものを選択してください。(2020年 東京都公立入試 類似)
1. 県庁所在地では路面電車の軌道を芝生化する環境整備が行われ、バス路線と都心の結びつきも強い。
 2. 県庁所在地では地下鉄網が発達しており、路面電車はすべて廃止され、バスの利用も極めて少ない。
 3. 2004年に九州新幹線が開通したが、県庁所在地周辺にシラス台地は存在せず、すべて平坦な低地に住宅地が広がっている。
 4. 石油備蓄基地のある西側の半島には鉄道が一切通っておらず、主要な交通手段は船舶のみに限られている。
- 問6 鹿児島県周辺に広がるシラス台地において、古くから稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、または畜産が盛んに行われてきた理由として最も適切なものはどれですか。(2026年 千葉公立入試 類似)
1. 土壌の保水力が低く、水が地中にしみ込みやすいため。
 2. 土壌が非常に硬く、田を耕すことが困難であるため。
 3. 標高が高く、夏でも気温が上がらず冷害が発生しやすいため。
 4. 土壌に含まれる有機物が多すぎて、稲の成長が早すぎるため。
- 問7 日本の農業に関する2021年の統計において、茨城県の農業産出額は約4263億円でそのうち野菜が35.9%を占めており、宮崎県の農業産出額は約3478億円でそのうち畜産が66.4%を占めています。これらのデータから読み取れる内容として正しいものを選びなさい。(2024年 茨城県公立入試 類似)
1. 宮崎県の畜産産出額は、茨城県の野菜産出額よりも多い。
 2. 茨城県の野菜産出額は、宮崎県の畜産産出額よりも多い。
 3. 茨城県は野菜の産出割合が最も高いため、産出額の合計も宮崎県より少ない。
 4. 宮崎県は農業産出額の総額において、全国で最も高い数値を示している。
- 問8 鹿児島県などの南九州に広がるシラス台地では、一般的な地域の井戸が約6メートルから10メートル程度の深さであるのに対し、約64メートルもの深さがある「深井戸」が掘られてきました。このように極端に深い井戸が必要とされた理由として最も適切な説明はどれですか。(2024年 福井公立入試 類似)
1. 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため
 2. 関東ローム層と呼ばれる粘土質の層が厚く、地表付近の水の浸透を妨げているため
 3. 花こう岩の地層が地表近くまで迫っており、岩盤の隙間にあるわずかな水を確保するため
 4. 台風による塩害を防ぐため、海水の混入しない深層の真水を確保する必要があるため
- 問9 鹿児島県は、全国有数の農業産出額を誇る一方で、その内訳を見ると米の生産割合が非常に低く、畑作や畜産が中心となっています。このような農業の特色が形成された背景として、最も適切な説明はどれですか。(2022年 栃木県公立入試 類似)
1. 水はけが良すぎる火山灰土からなるシラス台地が広く分布しており、稲作よりもサツマイモなどの畑作に適していたから。
 2. 大規模な干拓事業によって得られた平坦な土地が塩分を含んでいたため、米の栽培を避けて野菜栽培を優先したから。
 3. 山間部が多く耕地面積が限られているため、米の生産をあきらめて付加価値の高い果樹栽培に特化したから。
 4. 冬の気温が氷点下になる時期が長く、稲の成長が妨げられる冷害の影響を避けるために畜産へと転換したから
- 問10 火山活動によるエネルギーを利用した発電方式が、日本の九州地方で盛んに行われている理由と、そのエネルギーの性質について説明したものと最も適切なものはどれですか。(2022年 千葉県公立入試 類似)
1. 急峻な山地を流れる河川の落差を利用しており、雨の多い季節に発電量が最大になる性質を持つ。
 2. 広大な平野部にパネルを設置し、日照時間の長い太平洋側の気候を活かして昼間の電力を賄う性質を持つ。
 3. 活火山や温泉地が多い地形的な背景を活かしており、天候に左右されず安定した電力供給が可能であるという性質を持つ。
 4. 沿岸部で発生する強い海風を風車で捉えており、二酸化炭素を全く排出しない性質を持つ。
- 問11 九州地方の5県(佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島)における2014年の耕地面積の統計によると、佐賀県や熊本県では田の面積が畑の面積を上回っていますが、鹿児島県では全耕地面積に占める畑地の割合が突出して高くなっています。鹿児島県においてこのように畑作が盛んである主な理由として、土地の性質について説明したものを選びなさい。(2016年 岡山公立入試 類似)
1. 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に向きであったため。
 2. 筑紫平野のような平坦な低地が多くあり、排水作業を行って広大な畑地を確保しやすかったため。
 3. 山間部を切り開いた棚田が多く作られたが、近年の機械化に伴いその多くが果樹園へと転換されたため。
 4. 有明海沿岸の干拓によって得られた土地が、塩分の影響で稲作よりも畑作に適していたため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 暖流である黒潮の影響と、湿った季節風や台風の影響	宮崎市などの太平洋沿岸南部では、暖流である黒潮（日本海流）が近海を流れているため、冬の寒さが和らぎ温暖な気候がもたらされます。一方、夏から秋にかけては、太平洋高気圧からの湿った季節風や、南から北上する台風の通り道にあたるため、非常に多くの降水量が記録されます。これに対し、親潮は北日本に影響を与える寒流であり、対馬海流は日本海側の気候に大きく関わる暖流です。
問2	答え 1 宮崎県や鹿児島県では、シラス台地という火山灰由来の土地が広がっているため、農業産出額において畜産が占める割合が非常に高い。	鹿児島県や宮崎県の農業統計を見ると、豚や鶏、肉用牛といった「畜産」の割合が、他県に比べて突出して高いことがわかります。これは、火山灰が堆積したシラス台地という特殊な地形が広がっていることが関係しています。シラス台地は水もちが悪く稲作が困難であったため、その広大な面積を有効に活用できる畜産業が地域の基幹産業として定着しました。
問3	答え 1 平野部が少なく険しい地形が多いが、温暖な気候を活かして、火山の裾野や傾斜地であればいしょや果樹の栽培が行われている。	長崎県は雲仙岳などの火山があり、多くの半島が突き出しているため、大規模な平野が少ないのが特徴です。そのため、傾斜地を有効に利用した農業が発達しました。特に温暖な気候条件は、ばれいしょ（じゃがいも）の二毛作（同じ土地で年に2回栽培すること）を可能にしており、地形的な不利を気候条件で補う形で特色ある農業が展開されています。
問4	答え 1 畜産の割合が高いのが宮崎県、工業出荷額が最大なのが福岡県	宮崎県は広大な土地や気候条件を背景に、ブロイラーや豚などの飼育が盛んな「畜産王国」としての側面を持っています。対して福岡県は、北九州工業地帯の歴史的背景や、近年の自動車工場の進出などにより、九州の工業を牽引する立場にあります。選択肢に含まれる佐賀県は、平野部で米の生産が盛んですが、工業出荷額や畜産の割合で宮崎県や福岡県を上回ることはありません。
問5	答え 1 県庁所在地では路面電車の軌道を芝生化する環境整備が行われ、バス路線と都心の結びつきも強い。	鹿児島県では、ヒートアイランド現象の緩和や景観向上を目的として、路面電車の軌道敷を芝生で緑化する事業が行われています。また、県庁所在地である鹿児島市周辺には火山噴出物が堆積してできたシラス台地が広がり、そこを切り開いて大規模な住宅地が造成されてきました。2004年の九州新幹線の新八代―鹿児島中央間の先行開業以降、交通の利便性が大きく向上しています。
問6	答え 1 土壌の保水力が低く、水が地中にしみ込みやすいため。	シラスは火山から噴出した粒子の集まりであり、粒と粒の間に隙間が多いため、水を通しやすいという性質を持っています。そのため、水田に必要な水を溜めておくことが難しく、乾燥に強い作物を中心とした畑作が発達しました。
問7	答え 1 宮崎県の畜産産出額は、茨城県の野菜産出額よりも多い。	宮崎県の農業産出額（約3478億円）の66.4%を計算すると約2309億円となります。対して、茨城県の農業産出額（約4263億円）の35.9%は約1530億円です。このように、全体の産出額では茨城県が上回っていても、特定の品目（宮崎県の畜産）の占める割合が非常に高い場合、実際の産出額において逆転現象が起こります。統計資料を読み取る際は、割合（%）だけでなく、元となる総額を考慮することが重要です。
問8	答え 1 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため	南九州に広がるシラス台地は、過去の火山活動による火砕流堆積物（シラス）で構成されています。この層は非常に厚く、かつ粒子が粗いため水はけが良すぎるという特徴があります。そのため、雨水はすぐに地下へ浸透してしまい、地表付近で水を得ることが困難です。生活用水を確保するためには、この厚いシラス層を貫き、地下水が蓄えられている「帯水層」に到達するまで深く掘り進める必要がありました。
問9	答え 1 水はけが良すぎる火山灰土からなるシラス台地が広く分布しており、稲作よりもサツマイモなどの畑作に適していたから。	鹿児島県には、過去の火山活動による噴出物が堆積してできた「シラス台地」が広がっています。この地質は非常に水はけが良く、稲作に必要な水を保持しにくいという性質があるため、伝統的に水田よりも畑作が盛んになりました。現在では、この広大な土地を利用して、サツマイモや茶などの畑作、そして肉用牛や豚、鶏などの畜産が大規模に行われており、日本の食料供給基地としての役割を担っています。
問10	答え 3 活火山や温泉地が多い地形的な背景を活かしており、天候に左右されず安定した電力供給が可能であるという性質を持つ。	九州地方には阿蘇山などの活火山が多く、地下の熱源を確保しやすいという地理的条件が揃っています。地熱発電は、太陽光や風力といった他の再生可能エネルギーとは異なり、昼夜や天候を問わず一定の発電量を維持できる「ベースロード電源」としての役割が期待されています。
問11	答え 1 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水もちが悪く稲作に不向きであったため。	鹿児島県から宮崎県にかけての九州南部には、過去の火山活動による噴出物が厚く堆積した「シラス台地」が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、古くから稲作ではなくサツマイモや茶などの畑作、あるいは広大な土地を利用した畜産が発展してきました。これに対し、佐賀県などの平野部では水田率が高い傾向にあります。